

1面からのつぎ

白鳥を観察し続けて

岩手県金ヶ崎町  
及川 勇治



白鳥を撮影して今季で四十八年となりました。自宅から二キロ足らずの赤石溜池に白鳥が初越冬した時から、ほとんど毎朝観察に通い続け、令和三年三月で四十年

となりました。白鳥は、呼ぼうとしても飛来するものではなく、環境の良い場所を選んで飛来します。白鳥が飛来する場所は、人間にとっても環境の良い場所

となり、毎年飛来することを願って来ました。が、そのためには、地元の人達に理解と協力をお願いすることが必要であると、白鳥新聞を十七年間百五十号まで発行しました。また白鳥の会を結成し、一シーズン一回の白鳥観察会を十三回開催し、町長、議会議長、町教育長の皆様にも出席していただきました。

善行表彰を受賞して

兵庫県三木市  
神戸 哲雄



改めて振り返ると一九九五年(平成七年)一月十七日の阪神淡路大震災後避難施設での一年間以上救援活動で心身共に疲れましたが、それでも「何かしなくては」との思いから陶芸を始めました。その後、二〇〇〇年五月に神戸市「ギャラリー北野坂」で初個展を開催しその記念として売上金を札幌市にある福祉施設に寄付しています。

善行表彰を受けて

愛媛県四国中央市  
中川 晴太



この度は、令和三年度秋季善行表彰を賜り、心

から感謝申し上げます。私は当年八十三歳となりますが、子どもたちのPTA活動がキッカケとなり、昭和五十五年頃より各種の地域活動を始めることとなりました。現在も少年補導員・防犯協会・青パト隊長・地域自治会長等多くの活動に微力ではございますが、一生現役との思いで老骨に鞭打っています。

ふる里自慢

沖縄県支部

沖繩が誇る

芸能よもやま話

安次領律子

琉球王国の交易立国を高らかに宣言した「万国津梁の鐘」に示されているように、沖縄(琉球)は、南海の景勝の地にあって、朝鮮の優れたところを集め、中国と日本とは非常に親密な関係にある。この日中の間に

から感謝申し上げます。私は当年八十三歳となりますが、子どもたちのPTA活動がキッカケとなり、昭和五十五年頃より各種の地域活動を始めることとなりました。現在も少年補導員・防犯協会・青パト隊長・地域自治会長等多くの活動に微力ではございますが、一生現役との思いで老骨に鞭打っています。

善行表彰を受賞して

福岡県行橋市  
田中 重文



この度は、令和三年度秋季善行表彰をいただき、心より感謝いたします。

私には二人の娘がいます。成長するに連れて、勤務傍ら何かお手伝いをとの思いがボランティア活動に繋がったと思います。今後も更に日本善行会が発展され、全国の津々浦々で善行活動を行う人に勇気と希望を与え、この度の表彰、誠にありがとうございます。

成長をするのを見て感動しました。平成三年、学校の依頼で、子どもたちが素直に育って欲しいと、あいさつ道路(オアシス運動)掲示板を作成して、通学路に設置し、「小さな親切」実行章を運動本部よりいただきました。平成六年、国際交流短期ホストファミリーとして、米国女子中学生を受入れ、八年にはオランダの男子高校生を、異文化に辞書片手に、喜怒哀楽と困惑の一年間を経験した。男の子は、地方の訛言葉覚えて帰国しました。子どもたちには、環境とチャンスを与え、子ども同志の三密が必要で、少年補導員、学校評議員として、微力ですがお手伝いいたします。

善行表彰を受賞して

沖縄県浦添市  
宮里 良子



この度は、令和三年度秋季善行表彰を賜り、心より感謝申し上げます。

幼少より琉球舞踊を習い始め、十九歳で乙姫劇団に入団し、数々の舞台で経験を積んでまいりました。一九七〇年に劇団「於茂登座」(おもと座)に入団、一九七八年に劇団「群星」へ名称を変更し、夫で座長の松

あつて沸き起こる理想の島である。船をもって万国の架け橋となり、珍しい宝がいたるところに満ちている。沖縄の象徴する名文として今でも使われる名言です。そんな沖縄は、いろいろの独自の文化を築き上げました。その一つが「琉球古典芸能」です。それは、焼失してしまった「首里城」で誕生しました。琉球王国時代、当時親元と呼んでいた中国から、琉球の国王が変わるたびごとに、「あなたを琉球国の国王と認めます」という、勅書と王

様のしるしである冠をもって琉球に來ました。その使節団は冊封使といひます。使節団は季節風につけてやってきて、季節風につけて帰りますので、滞在は四〜六ヶ月になったようす。そこで国王は彼らをもてなすために、踊り奉行を置き、琉球芸能を創らせました。王様の冠を載せてやってくるので、その船を冠船、そして彼らをもてなす芸能を「御冠船踊り」と呼び、現在、古典芸能(琉球舞踊・組踊)と呼ばれ、継承されております。組踊は琉球

の国劇とされ、国の重要な無形文化財として、さらには世界遺産として認定され、人間国宝(個人認定)も誕生しました。また、今年めでたく琉球舞踊から人間国宝が二人誕生し、沖縄の芸能はますます隆盛の一途をたどっております。戦を好まない沖縄人ちゆが、平和の象徴である芸能を愛し、世界どこにいても、沖縄の心を忘れず、常に故郷に向かつている沖縄人。

好きな琉歌「誠一つの浮世さめ、のよでい言葉の合わんうちゆが」(この世の中は誠こそが一番。誠を尽くして訴えれば、通じ合わない訳はない。)

琉球王国の交易立国を高らかに宣言した「万国津梁の鐘」に示されているように、沖縄(琉球)は、南海の景勝の地にあって、朝鮮の優れたところを集め、中国と日本とは非常に親密な関係にある。この日中の間に

琉球王国時代、当時親元と呼んでいた中国から、琉球の国王が変わるたびごとに、「あなたを琉球国の国王と認めます」という、勅書と王様のしるしである冠をもって琉球に來ました。その使節団は冊封使といひます。使節団は季節風につけてやってきて、季節風につけて帰りますので、滞在は四〜六ヶ月になったようす。そこで国王は彼らをもてなすために、踊り奉行を置き、琉球芸能を創らせました。王様の冠を載せてやってくるので、その船を冠船、そして彼らをもてなす芸能を「御冠船踊り」と呼び、現在、古典芸能(琉球舞踊・組踊)と呼ばれ、継承されております。組踊は琉球

の国劇とされ、国の重要な無形文化財として、さらには世界遺産として認定され、人間国宝(個人認定)も誕生しました。また、今年めでたく琉球舞踊から人間国宝が二人誕生し、沖縄の芸能はますます隆盛の一途をたどっております。戦を好まない沖縄人ちゆが、平和の象徴である芸能を愛し、世界どこにいても、沖縄の心を忘れず、常に故郷に向かつている沖縄人。

好きな琉歌「誠一つの浮世さめ、のよでい言葉の合わんうちゆが」(この世の中は誠こそが一番。誠を尽くして訴えれば、通じ合わない訳はない。)

去る一月二十七日、日本善行会の小西功圃釧根支部長(八十三歳)が逝去されました。小西氏は、平成二十二年に善行章を受賞し、令和二年に善行銀章を受賞しました。平成二十四年に釧根支部が創設され、設立当初から支部長として、会員増強と支部運営に尽力しました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



訃報

